

【小学校の部】最優秀賞（大分県教育の日推進会議会長賞）

## 家族の絆

豊後高田市立香々地小学校 6年  
板井 凛香



「お母さんが職場でたおれて救急車で運ばれた」と言ってお父さんがあわてて家を飛び出た。何が起きたのかよくわからなかった私は、胸がときどきしてとても不安になった。朝、いつもと同じように一緒にご飯を食べて仕事に向かったのに、何があったのだろうか。救急車で運ばれたということが信じられなかった。

診断された病名は、「くも膜下出血」。亡くなったひいばあちゃんと同じ病気であることを知ったとき、私はお母さんも死んでしまうのではないかと泣きたくなった。

お母さんが入院してから我が家のいつもの日々がガラッと変わった。朝ご飯は、お姉ちゃんとお父さんが担当。祖父母が夕飯作りに来てくれたり、お父さんが病院に行って遅くなる日は家に泊まってくれたりした。私もお姉ちゃんと食事の準備をし、妹や弟のお世話も率先してやった。まだ保育園の妹も、自分でパジャマを着ようがんばっていた。2年生の甘えん坊の弟も朝自分で起きられるようにならなうがんばっていた。今まで当たり前にお母さんがしてくれていたことがこんなに多かったことに驚いた。私はもっと自分にできることは自分でしていこうと思った。

いろんな人に助けられながら過ごす毎日が続いていたある日、父が嬉しそうに私たちに教えてくれた。

「お母さんは手術も成功したよ、リハビリにがんばっているって。今度、テレビ電話もできるよ。」その言葉を聞いたとき、本当にうれしくてほっとした。よかった、お母さん、がんばったんだ。お母さんが家に帰ったとき、お母さんの負担を少しでも減らせるように今まで以上にがんばろうと思った。

それから約一ヶ月後、後遺症も残らず元気に退院することができた。ちょうど、桜が満開でお母さんの退院を祝福してくれているような気がした。家の裏山で、久しぶりに家族みんなそろってお花見をした。我が家の毎年の恒例行事だけれど、今年は特別に桜の花が美しく輝いているように見えた。家族みんなそろって過ごせることが当たり前でないことやこんな時間がどんなに幸せことなのかを私は知った。

お母さんの入院は本当にショックで悲しかったが、私にいろんなことを教えてくれた。今まで考えなかったようなことを考え、たくさんの方に気づかされた。私を支えてくれる人がこんなにもたくさんいたこと。学校では先生や友だちがいつも気づかう言葉をかけてくれた。その言葉が私に元気をくれた。また、一生懸命に私たちのことを考えてくれた祖父母。そして何よりも私の大切なお母さんの命を救ってくれた病院の方々。

私はみんなに大きな大きな声で「ありがとう」と伝えたい。そのためにも、いつも感謝の気持ちを忘れずに、自分も誰かを支えてあげられるような人になりたいと思う。